

2016年度第3回京都競馬特別レース名解説

<第1日>

○ 比良山特別

比良山（ひらさん）は、滋賀県の琵琶湖西岸に連なる比良山地の高峰群。蓬莱山・武奈ヶ岳・打見山などが並んでいる。近江八景の1つ「比良の暮雪」に数えられた景勝地。

○ 橘ステークス

橘（たちばな）は、ミカン科の常緑小高木。日本原産唯一の柑橘類とされ、四国・九州・沖縄などに自生する。初夏に芳香のある白色の五弁花を咲かせる。京都御所紫宸殿（きょうとごしよししんでん）の「右近の橘」が有名。花言葉は「追憶」「永遠」。

○ 彦根ステークス

彦根（ひこね）は、滋賀県の北東部に位置する市。昭和12年市制施行。江戸時代に井伊氏が彦根城を築城し、その後城下町として栄えた。現存する彦根城の天守閣は、国宝に指定されている。

<第2日>

○ あずさ賞

あずさは、カバノキ科の落葉高木。深山に自生し、高さ20mにも達する。雌雄同株で、晩春に黄褐色の雄花を垂れ、下枝に緑色の雌花を上向きにつける。堅く弾力があるこの木で作られる弓は梓弓と呼ばれ、神事に用いられる。

○ 桃山ステークス

桃山（ももやま）は、宇治川の北岸に位置する京都市伏見区の地名。江戸時代に、かつて豊臣秀吉が築いた伏見城跡一帯に桃の木を植えたことに由来するといわれている。

○ 読売マイラーズカップ（GⅡ）

本競走は、マイル路線の拡充を目的として昭和45年に創設された重賞競走。『安田記念』の前哨戦としての意味合いを持ち、春の短距離路線を歩む馬にとって重要な競走となっている。幾度かの変更を経て、平成24年より阪神競馬場から京都競馬場に移設の上実施されている。なお、第1着馬には同年の安田記念への優先出走権が与えられる。

読売新聞社は、東京・大阪・福岡に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第3日>

○ あやめ賞

あやめは、アヤメ科アヤメ属の多年草。日当たりのよい乾燥した草地に自生する。初夏、花茎の先に黄色い筋のある紫または白色の花を咲かせる。アヤメ属には、カキツバタ、シヤガなども含まれる。

○ 下鴨ステークス

下鴨（しもがも）は、京都市左京区の地名で、賀茂川と高野川にはさまれた地域。下鴨神社があることで有名。同神社は、賀茂御祖（かもみおや）神社の通称。祭神は玉依姫命（たまよりひめのみこと）と賀茂建角身命（かもたけつののみこと）。

○ 天王山ステークス

天王山（てんのうざん）は、京都府と大阪府との境にある山。西国街道が山麓を通過していたことから古来より戦略上の要地であった。天正 10 年(1582)に羽柴秀吉が明智光秀を破った山崎の戦いが行われた地であり、以降勝負を決する大一番のことを「天王山」と呼ぶようになった。

<第4日>

○ 鷹ヶ峰特別

鷹ヶ峰（たかがみね）は、京都市北区の地名。同地は、江戸時代初期、本阿弥光悦が草庵を結び、芸術文化の拠点となった。歴史ある名寺が集まり、中でも光悦寺は、“山二つ かたみに時雨 光悦寺”と詠まれ、鷹ヶ峰の山々を見渡す茶室が並ぶ。

○ 糺の森特別

糺の森（ただすのもり）は、下鴨神社の南側に広がる森。『源氏物語』や『枕草子』など、多くの物語や詩歌に登場する名所。現在は国の史跡として保護されている。ケヤキ・ムク・エノキなど、多くの植物が見られ、中には樹齢 600 年に及ぶものもある。

○ 端午ステークス

端午（たんご）は、五節句のひとつ。5月5日の節句。「端」は初めの意味、「午」は「五」に通じ、「5月初めの5日」という意味。男子の節句とされ、武者人形などを飾り、こいのぼりを立てる他、粽や柏餅を食べ、菖蒲湯（しょうぶゆ）を立てる。また、同日には、競馬・流鏝馬・凧揚げなど勇壮な行事が行われる。

○ 天皇賞（春）（G I）

本競走は、明治 38 年 5 月 6 日に横浜の日本レスクラブが、明治天皇から『菊花御紋付銀製花盛器』を下賜され創設した『エンペラーズカップ』を前身とする競走。39 年には東京競馬倶楽部にも御賞典が下賜され、その後、阪神・小倉・福島・札幌・函館の計 7 つの競馬倶楽部で『帝室御賞典競走』が実施された。当初は、各競馬倶楽部が独自の競走条件で実施していたため、競走名こそ同じものの、レースの性格は統一されたものとは言えなかったが、昭和 12 年に各競馬倶楽部が統合されて日本競馬会が誕生したのを機に、『帝室御賞典競走』は春が阪神、秋が東京と、年 2 回東西で実施されることとなり、戦争で中断される 19 年春まで続いた。戦後の 22 年春に『平和賞』の名で復活。同年秋から現在の名称である天皇賞となった。

○ 高瀬川ステークス

高瀬川（たかせがわ）は、京都市中南部にある運河。17 世紀初め角倉了以（すみのくらしょうい）が鴨川沿いに開いた鴨川の分水路で、伏見を経て宇治川に通じる。名は、貨物運送の高瀬舟が上下したことに由来する。森鷗外の『高瀬舟』や、吉川英治の『宮本武蔵』などの中で描かれている。

<第 5 日>

○ 矢車賞

矢車（やぐるま）草は、ユキノシタ科の多年草。深山に自生し、クサビ形の五小葉を矢車形につける。6～7 月頃、花茎の上部に円錐状に小さな花が集まって咲く。葉は乾燥させてタバコの代用とされる。俗にヤグルマソウと呼ばれるものは、キク科のヤグルマギクのことである。

○ 六波羅特別

六波羅（ろくはら）は、京都市東山区の一地区。平安時代からの歴史上の要地で、平氏一門が拠点としていた。鎌倉時代には六波羅探題が設置され、京都朝廷方の監視など鎌倉幕府の政務を執行する役割を担っていた。

○ 京都新聞杯（GⅡ）

本競走は、昭和 28 年に『京都盃』の名称で創設された重賞競走。42 年に菊花賞のトライアルレースに指定され、44 年にはそれまでの別定重量（31 年・34 年・35 年はハンデ戦で実施）から定量に移行、46 年に名称も『京都新聞杯』と変更された。さらに 59 年の番組改革では距離が 2200m に延長されるとともに GⅡ に格付けされた。平成 12 年に菊花賞の実施時期が繰り上げられたのに伴い、春季に移設された。この際、競走条件についても 2000 m・GⅢ に変更されたが、13 年から再び GⅡ となり、14 年には 2200m へと変更された。

京都新聞は、京都新聞社より発行されている日刊紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第 6 日>

○ 鴨川特別

鴨川（かもがわ）は、京都市街東部を貫流し、桂川に注ぐ川。京都北山の棧敷ヶ岳付近に源を発する。高野川との合流点から上流を賀茂川、下流を鴨川と記し、総称では鴨川を用いる。三条大橋・四条大橋・五条大橋など 20 余の橋が架かり、四条河原は納涼地として有名である。

○ 上賀茂ステークス

上賀茂（かみがも）は、賀茂川と高野川の合流点から上流部の賀茂川流域一帯。賀茂別雷（かもわけいかづち）神社（上賀茂神社）を中心に社家町が形成されている。同神社では、毎年 5 月 5 日に古式に則った神事の競馬（くらべうま）が行われ、これは日本最古の競馬といわれている。

○ 鞍馬ステークス

鞍馬（くらま）は、京都市左京区にある地域。延暦 15 年（796）創建の鞍馬寺が有名で、修験道場であるとともに、王城の北方鎮護の寺でもあった。また、鞍馬天狗や牛若丸の修行地としても知られ、年中行事の竹伐り（6 月 20 日）と火祭り（10 月 22 日）が有名。

<第 7 日>

○ 白川特別

白川（しらかわ）は、京都市北東部を流れる川。比叡山地に源を発し、祇園付近で鴨川に合流する。また、白川流域一帯の地名。古くは鴨川以東、東山との間の地区を指した。

○ 錦ステーキス

錦（にしき）は、京都市中京区にある市場の名称。色鮮やかなアーケードにおおわれた石畳の道が 390m 続き、多くの観光客が訪れる。また、京の台所として古くから栄えており、京都の旬の食材や京野菜、京漬物などを扱った店が多数軒を連ねている。

○ 都大路ステーキス

都大路（みやこおおじ）は、京都市内を縦横に走る通りの総称。都の大通り、都の幅広い主要な道路のこと。京都は碁盤の目状に区別された平安京を基に発達した町で、現在でも三条通、四条通といった当時を偲ばせる呼び名の通りが残っている。

<第8日>

○ パールステーキス

パール（Pearl）は、真珠を意味する英語。色は白・黄・桃・淡青・黒などがあり、装身具として古くから世界各地で用いられた。養殖物の量産は長年困難とされていたが、日本において、御木本幸吉氏が真珠の養殖に初めて成功した。

○ 葵ステーキス

葵（あおい）は、アオイ科の植物の総称。また、家紋のひとつで、フタバアオイの葉を図案化したもの。賀茂神社の神紋に由来し、徳川氏の葵巴の紋などが有名。賀茂神社で 5 月 15 日に行われる葵祭は、石清水祭、春日祭とともに三大勅祭の 1 つに数えられる。

○ 栗東ステーキス

栗東（りっとう）は、滋賀県南部に位置する市。平成 13 年に市制施行。野洲川南岸の平野と信楽山地北斜面の丘陵地を占める。米や野菜の生産が盛んな一方で、化学・金属・機械工業などの工業地帯としても発展している。

昭和 44 年には、JRA の競走馬調教施設である栗東トレーニング・センターが開設された。

<第9日>

○ メルボルントロフィー

メルボルンは、オーストラリア第 2 の都市。ヴィクトリア州の州都でもある。フレミントン競馬場で毎年 11 月に行われる『メルボルンカップ』当日は、同州の休日に指定され、オーストラリア最大級のイベントとして大きな注目を集める。

○ オーストラリアターフクラブ賞シドニートロフィー

オーストラリアターフクラブは、平成 23 年 2 月、シドニー地区にあった 2 つの競馬クラブを統合して設立された団体。所有競馬場として、ロイヤルランドウィック競馬場・ローズヒルガーデン競馬場・ウォリックファーム競馬場・カンタベリーパーク競馬場が有名。

シドニーは、オーストラリア第 1 の都市。ニューサウスウェールズ州の州都でもある。ハーバーブリッジやシドニー・オペラハウスなどが観光地として世界的に有名。

○ 平安ステークス（GⅢ）

本競走は、平成 6 年に創設された重賞競走。25 年に距離が 1800m から 1900m に変更され、時期も 1 月から 5 月に移設して実施されている。

平安（へいあん）は、平安京の略称。平安京は、延暦 13 年（794）に長岡京より遷都された都で、大きさは東西 4.5 km、南北 5.2 km。平安遷都 1100 年を記念して明治 28 年に建立された平安神宮は、大極殿と応天門を模造し、平安京大内裏の朝堂院を 3 分の 2 に縮小し復元している。祭神は桓武天皇で、昭和 15 年に孝明天皇が合わせ祀られた。秋には京都三大祭の 1 つである「時代祭」が行われる。

○ レーシングオーストラリア賞オーストラリアトロフィー

レーシングオーストラリアは、平成 27 年 4 月、オーストラリアレーシングボード、レーシングインフォメーションサービスオーストラリア、オーストラリアスタッドブックの 3 つの団体が合併した団体。業務内容としては、競馬番組の認可、調教師・騎手の免許交付などを行っていたオーストラリアレーシングボードの業務の他に、情報の管理や血統登録などが新たに加わった。

オーストラリアは、オセアニアのオーストラリア大陸を占める連邦制の国。首都キャンベラ。

<第 10 日>

○ 御室特別

御室（おむろ）は、京都市右京区東部の地名。衣笠から御室に続く一帯には金閣寺・竜安寺・等持院・仁和寺など由緒ある寺院が多く、観光客で賑わう。南部に位置する双ヶ岡の西麓は、吉田兼好が庵を結んで『徒然草』を書いたことで知られている。

○ 鳳雛ステークス

鳳雛（ほうすう）は、鳳凰の雛のこと。また、将来が期待される優れた才分を持つ人物の雅称。中国の『三国志』で、軍師として有名な龐統は「鳳雛」と称され、周囲から将来を囑望されていたといわれている。

○ 伊勢志摩サミット2016開催記念

本競走は、G7伊勢志摩（いせしま）サミットの開催を記念して実施される。

G7伊勢志摩サミットは、平成28年5月26～27日に三重県志摩市賢島で開催される主要国首脳会議。日本はこれまでに5回議長国を務めており、直近では、20年7月に北海道洞爺湖サミットが開催された。

<第11日>

○ 京都ハイジャンプ（J・GⅡ）

本競走は、平成11年に創設された障害重賞競走。本競走で使用する第9号障害は高さ80cm、幅約15mのバンケット障害で、遠近感の乏しい競走馬のみならず、騎手にとっても技量を問われる難度の高いものとなっている。

○ 御池特別

御池（おいけ）は、京都市の中央を東西に通じる幹線道路の名称。名は、二条城の南にある神泉苑の池の前を通ることに由来するという説がある。沿道には神泉苑のほか、本能寺や京都市役所などがあり、日本三大祭のひとつである祇園祭では、山鉾（やまぼこ）巡行のコースとなる。

○ 白百合ステークス

白百合（しらゆり）は、ユリ科の一種で花の白いユリのこと。5～8月頃に花を咲かせ、主に観賞用として栽培される。花言葉は「純潔」「無垢」。

○ 朱雀ステークス

朱雀（すざく）は、中国の伝説上の神獣で、四神の1つ。南方を守護する聖なる鳥とされる。中国唐の時代の条坊制を用いた都城でのメインストリート朱雀大路と呼ぶ。日本でも、平安京の大内裏の南門中央部に位置する朱雀門から、南端の羅城門までの通りを朱雀大路と呼ぶ。

<第12日>

○ 東大路ステークス

東大路（ひがしおおじ）は、京都市の東部を南北に走る大通りのひとつ。高野から東福寺付近まで通じている。沿道には京都大学のキャンパスのほか、知恩院、八坂神社など観光客で賑わう神社仏閣も多い。

○ 安土城ステーキス

安土城（あづちじょう）は、滋賀県近江八幡市にあった城。現在は城跡全体が特別史跡に指定されている。天正7年（1579）に織田信長が天下統一の拠点として築城した。信長は、その3年後の天正10年（1582）に京都の本能寺で明智光秀に襲われ、安土城はそれに続く山崎の戦いの余波で焼失した。

○ 白藤賞

白藤（しらふじ）は、マメ科フジ属の一種で花の白いヤマフジのこと。4～5月頃に花を咲かせ、主に観賞用として栽培される。花言葉は「決して離れない」「歓迎」。

○ 與杼特別

與杼（よど）は、京都競馬場のある京都市伏見区「淀」の古称。同地には、鉄器の製造や稲作、機織りを伝えた秦一族が住んでいたことから、横糸を通す織物の道具である「杼（ひ）」に因む「與杼」という名が伝えられたといわれている。京阪電鉄淀駅近くには與杼神社がある。